

国語科学習指導案

- 1 日 時 平成29年1月 [REDACTED]
- 2 学 年 第2学年 [REDACTED]
- 3 単元名 いにしへの心を訪ねる『平家物語』

4 単元について

○ 生徒観

本学級では、伝統的な言語文化のうちの「古典」についての事項で『竹取物語』『枕草子』『徒然草』を学習し、古典特有の魅力である「①作品を朗読することで、それぞれの時代やジャンルによる特有の調子やリズムを味わい、古典を楽しむ。②古典の現代に通じるものの見方や考え方の他に、現代とは違った、あるいは現代人が忘れてしまったものの見方や考え方を知る。」の2点を意識した言語活動を通じた学習を展開した。

生徒たちは全員、3作品の冒頭部分をすらすらと暗唱しており、長い年月を隔ててもなお現代と共通するものや大きく異なることに気付ける古典の学習に意欲的に取り組むことができる。そこで、知識構成型ジグソー法を取り入れて、『平家物語』に描かれている3人の武士の言動に注目した資料を分担して分析し、それを他者に伝え、統合して考えることで古典の世界に描かれる武士の生き方を一人の人間として実感的に理解することにつながる。

○ 単元観

本単元は、学習指導要領「伝統的な言語文化に関する事項」の指導事項「ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」「イ 古典に表れたものの見方考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」と「C 読むこと」の指導事項「文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」を受けて設定するものである。

『平家物語』は、琵琶法師によって語り物として人々に親しまれ、その独特のリズム感や対比・リフレインなどによって臨場感あふれる音楽的な文体になっている。繰り返し朗読することで、自ずとそのリズムを感じ取れるであろう。また、『平家物語』は、軍記物語ならではの歴史書にはない個々の人間のありさまが描かれている。合戦という緊迫した状況に追い詰められた当時の武士の生き方や心情について理解を深めることができる作品である。

○ 指導観

古典を学習する際、現代語訳を手がかりに内容を理解させようとしても生徒の中には内容を消化しきれない生徒もいる。「古典に表れたものの見方や考え方に触れ」るために、古典の易しい現代語訳や映像メディアを活用し、情景や登場人物の心情などを想像しながら読める手立てを行うことで、古典を読む楽しさを実感させたい。そのために、指導に当たっては、次の3点について特に留意する

① 課題の設定の工夫

映画監督として『平家物語』の一場面の演技指示書を作るというパフォーマンス課題を設定することで、単元全体の課題である『平家物語』に登場する武将たちが、どんなことを考え、どんな生き方をしているかに迫らせる。

② 情報収集・整理・分析の工夫

知識構成型ジグソー法を使って、「弓流」と「敦盛の最期」に描かれる「那須与一」「源義経」「熊谷直実」の3人の武士の言動を説明させ、考えを統合することで当時の武士の生き方を考えさせる。

③ 実行の工夫

『平家物語』の中の一場面を取り上げ、具体的な演技方法と理由を指示する演技指示書を作らせる。

5 単元の目標

- 「平家物語」についての感想や登場人物の心情についての考えを進んで話し合することができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- 表現の特徴を生かして朗読し、「平家物語」の世界を楽しむ。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)ア(ア))
- 場面や状況を読み取り、当時の武士の生き方や心情について理解を深める。
(読むイ) (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)ア(イ))

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 「平家物語」についての感想や登場人物の心情についての考えを進んで話し合っている。	① 場面や状況を読み取り、当時の武士の生き方や心情について理解を深めている。	① 表現の特徴を生かして朗読し、「平家物語」の世界を楽しもうとしている。

7 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校では、育成したい能力として①コミュニケーション能力 ②論理的・建設的批判能力 ③主体性・積極性 ④回復力・耐える力 ⑤自らへの自信 ⑥高い志 の6点を位置付けている。

本単元では、『平家物語』を通して、命をかけた合戦の最前線で武士であろうとした人間の心情や葛藤を読み取ることで、武士たちの生き方を考えることをねらいとしている。協調学習の手法である知識構成型ジグソー法を用いて、仲間と主体的に問題解決に取り組むことで①「コミュニケーション能力」を育成できると考える。また、課題設定として映画監督として「平家物語」の武士たちに、オリジナルのセリフを語らせ、どう演じさせるかを考えさせていく過程から生徒の③「主体性・積極性」を育成しながら、授業を展開できると考える。

8 指導と評価の計画(全6時間)

次	時	学 習 内 容	評 価	
			評 価 規 準・【評価方法】	資質・能力の 評価
1	1	課題の設定 ○単元の学習計画を知り、学習課題をつかむ。 パフォーマンス課題	○表現の特徴を生かして朗読し、「平家物語」の世界を楽しもうとしている。(伝言(2)ア(ア)) 【行動観察・ワークシート】	
		あなたは、映画監督として『平家物語』の一場面を撮ることになりました。単元の最後に、その場面でどんなふう演技させ、どう語らせるか演技指示書を書いてもらいます。そのためには、平家物語に登場する武将たちが、どんなことを考え、どんな生き方をしているか知る必要があります。『平家物語』に描かれる人々の想いに迫っていきましょう。 ・「平家物語」冒頭を音読し、歴史的仮名遣いなど基本的な言語事項を確認する。		

		<ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」冒頭を朗読する。 ・「平家物語」のテーマや世界観について考える。 ・単元全体の課題設定である当時の武士の生き方について自分の考えを書く。〔Before〕 		
2	2	情報の収集・整理・分析 ○「扇の的」の情景や登場人物の心情に着目して読み深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・「扇の的」を音読し、歴史的仮名遣いなど基本的な言語事項を確認する。 ・登場人物である那須与一、源義経の言動に注目して読む。 ・表現技法の効果に注目して読む。 ・「扇の的」を朗読する。 	○表現の特徴を生かして朗読し、「平家物語」の世界を楽しもうとしている。(伝言(2)ア(ア)) 【行動観察・ワークシート】	
	2	情報の収集・整理・分析【協調学習】 ○ エキスパート活動・ジグソー活動(1) <ul style="list-style-type: none"> ・A, B, Cの資料からそれぞれの武士としての考えを明らかにしてセリフを書く。 ・それぞれの視点を総合し、源氏の「あ、射たり。」「情けなし。」の心境について考える。 	○「平家物語」についての感想や登場人物の心情についての考えを進んで話し合っている。(関心・意欲) 【行動観察・ワークシート】	①コミュニケーション能力 ③主体性・積極性
		○ ミニクロストーク・クロストーク(1) 【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・各班の考えを交流する。 ・武士の生き方について自分の考えを書く。〔After〕 	○場面や状況を読み取り、当時の武士の生き方や心情について理解を深めている。(読むイ・伝言(2)ア(イ)) 【行動観察・ワークシート】	①コミュニケーション能力 ③主体性・積極性
3	1	実行 ○『平家物語』の中の一場面を取り上げ、具体的な演技方法と理由を指示する演技指示書を作り、交流する。	○場面や状況を読み取り、当時の武士の生き方や心情について理解を深めている。(読むイ・伝言(2)ア(イ)) 【行動観察・ワークシート】	③主体性・積極性

9 本時の学習指導について

(1) 本時の目標

- 場面や状況を読み取り、当時の武士の生き方や心情について理解を深める。

(2) 本時の評価規準

- 場面や状況を読み取り、当時の武士の生き方や心情について自分の考えを表現し、理解を深めている。

(3) 準備物

ワークシート、ホワイトボード

(4) 本時の展開 (第5時/6時間)

過程	学習活動	指導上の留意点 (◆支援)	評価規準 〔評価方法〕	資質・能力の評価
導入	1 「平家物語」冒頭部分を暗唱し、本時のねらいと学習課題を確認する。	○課題を把握させる。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 目) 『平家物語』の武士たちの生き方について考えよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課) 源氏の「あ、射たり」「情けなし」の心境を説明しよう。 </div>			
展開	2 ミニクロストークを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 3人グループの一人を残してグループを移動して交流する。 </div> <div style="text-align: center; font-size: 2em;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 他のグループで聞いた意見をグループに持ち帰り、再検討してクロストークに活かす。 </div>	○グループで話し合った考えを他のグループに根拠を示しながら説明させる。 ○互いの説明について、質問や意見を加えながら交流し合う。 ○グループの考えを聞き合い、意見が変わった所や追加・修正箇所を色ペンでホワイトボードに書かせる。	場面や状況を読み取り、当時の武士の生き方や心情について理解を深めている。(読むイ・伝言(2)ア(イ) 【行動観察・ワークシート】	コミュニケーション能力 主体性・積極性
	3 クロストーク1を行う。 源氏の「あ、射たり」「情けなし」の心境は？	○グループの考えを全体に伝える。 ◆再検討して意見が変わった点や思いがさらに強まった部分を中心に交流させる。 ○書いたものを読み上げるのではなく、自分の言葉で説明させる。		
	4 クロストーク2を行う。 「平家物語の武士たちの生き方をどう思いますか」	○自分の考えをグループに伝える。 ○グループで話し合ったことを全体で交流する。		
まとめ	5 本時のまとめと振り返り、次時の予告を行う。	○本時の学習内容を「『平家物語』の武士たちの生き方」というテーマで自分の言葉でまとめ、記述する。 ○意見の交流をする。		

【期待する解答】

那須与一にとって、大将の源義経の命令は絶対であった。武士は、名誉を大切にしてきた。『弓流し』の義経は、命に替えても自分の弓を取りに行った。源氏のトップとしてのプライドからの行動だった。だから、与一に義経が舞を舞った老兵を射落としたことを源氏の兵が「あ、射たり」と言ったのは、戦乱の場で敵を射る＝命のやりとりは当たり前という考えである。一方、『敦盛の最期』の熊谷次郎直実は、源氏の武将でありながら平家の武将の首を取ることを躊躇する。敵ながら自分の息子と同じ年頃の平敦盛の潔く風流な生き方に感動したからだろう。武士の生き方に疑問を持ち、武士の身を捨てて出家する行動からも熊谷は、人間の情を優先した。『弓流し』で、源氏の兵が「情けなし」と言ったのも敵味方をこえて素晴らしいものを褒めたたえる思いを大切にしたい。容赦なく命を奪わせる義経は非情だという考えだと思う。

「那須与一」の一節はこれで終わり、次の「弓流」に入ると小舟に乗る一人の武将が感心して立ち上がり、舞を舞ったところ、再び義経の命令により、与一がこの者を射て倒すという話があります。

あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟のうちより、年五十ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持ったるが、扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり。伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄つて、「御定ぞ、つかまつれ。」と言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつぴいて、しや頸の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。

語句の意味

● 感に堪へざるにや…：心の中からわきあがってくる感動にたえられなかったのだろう。

● 黒革をどし…：鎧を濃紺や黒の革ひもでつなぎ合わせたもの。

● 伊勢三郎義盛…：源義経の家臣で義経四天王の一人。

● 中差…：戦闘における主体となる矢。やじりの先がとがって

おり、敵を殺傷するための戦闘用の矢。



【現代語訳】

あまりのおもしろさに、感に堪えなかったであろう、舟の中から、年の頃五十歳ほどの男で、黒革おどしの鎧を着、白柄の長刀を持った男が、扇の立ててあった所に立つて舞を舞った。そのとき、伊勢三郎義盛が、那須与一の後ろへ馬を歩ませていき、

「義経殿からの（ ）命令であるぞ、射よ。」と命じたので、今度は中差を取ってしっかりと弓につがえ、十分に引き絞って、男の首の骨をひょうふつと射て、舟底へ真つ逆さまに射倒した。

【話し合おう】

◆ 「黒革をどしの鎧を着た男」を「射よ」と義経に命じられた那須与一は、どんな思いで引き受けたのでしょうか。（喜んで引き受けた？ 嫌々引き受けた？）

★ 「話し合おう」をふまえて、義経と与一にオリジナルのセリフをつけなさい。

ナレーター あまりの与一の弓の腕前の素晴らしさに、小舟に乗る一人の武士が感心して立ち上がり、舞を舞い始めました。それを見て義経は、

義経



与一



Empty speech bubble for Yonekida's dialogue.

Empty speech bubble for the narrator's dialogue.

「扇的」の場面の後、義経の逸話としてよく知られた弓流しの場面が続く。

源氏の陣に、水際にいた二百人余りの平家が攻めてきたが、逆に八十余騎の源氏に攻め立てられ、舟に逃げ帰ってしまう。勝ちに乗じた源氏は、馬の太腹がつかるほど海に乗り入れて戦った。そのとき、義経の弓がはずみで平家に引っ掛けられ落とされてしまう。義経は、味方の制止も聞かず、むちでかき寄せ取ろうとし、やっと拾い上げて帰った。老臣たちが、「どんなに高価な弓であろとも、どうしてお命に替えられましょうか。」と非難すると、義経はその理由を答えた。

「弓の惜しさに取らばこそ。義経が弓といはば、二人しても張り、もしは三人しても張り、叔父の為朝が弓のやうならば、わざとも落として取らすべし。厄弱たる弓を敵の取り持つて、『これこそ源氏の大將九郎義経が弓よ。』とて、嘲哂せんずるが口惜しければ、命にかへて取るぞかし。」
と、宣へば、みな人これを感じける。

語句の意味

- ・叔父の為朝：源為朝。弓の名人で知られている。
- ・厄弱たる：弱々しい・弓の張りが非常に弱いこと。
- ・嘲哂せんずる：ばかにしてからかうこと。



【現代語訳】

「弓が惜しくて取ろうとしたのではない。義経の弓が、二人がかり、三人がかりで張る叔父の為朝の弓のようなら、わざと落としても取らせよう。弱々しい弓を敵が拾い、『なんとこれが源氏の大將九郎義経の弓だよ。』と嘲笑する(ばかにして笑う)にちがいないのが悔しいので、命懸けで拾ったのだよ。」
と言われたので、全ての人々がこれを聞き感じ入ったのだった。

「話し合おう」

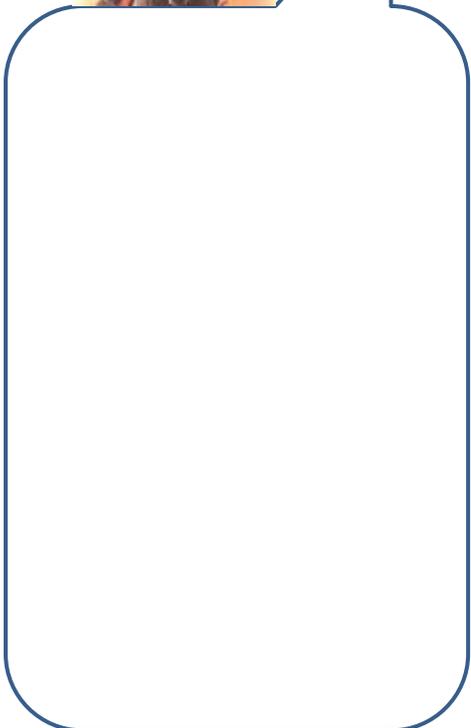
◆義経が大切にしていたのは「高価な弓」以外の何でしたか？なぜですか？

★「話し合おう」をふまえて、義経にオリジナルのセリフをつけなさい。

ナレーター 老臣たちが、「どんなに高価な弓であろとも、どうしてお命に

替えられましょうか。」と非難すると、義経は、その理由を答えた。

義経



源氏の武将、熊谷次郎直実は、一ノ谷で海へと敗走する平家を追つ。海岸で見

つけた鎧武者を呼び止めて組みかせる。その鎧武者はわが子の小次郎と同じ年

頃の十六、七歳の美少年、平家の大將、平敦盛でした。敦盛にわが子を重ねた直

実は迷いますが、泣く泣く首を取るのです。

「あはれ、弓矢とる身ほど口惜しかりけるものはなし。武芸の家に生まれず

は、何とてかかる憂き目をば見るべき。情けなうも討ち奉るものかな。」とか

きくどき、袖を顔に押し当ててさめざめとぞ泣きぬたる。

やや、久しうあつて、さてもあるべきならねば、鎧直垂をとつて首を包まん

としけるに、錦の袋に入れたる笛をぞ腰にさされたる。「あないとほし、この

暁、城の内にて管弦し給ひつるは、この人々にておはしけり。当時味方に、

東国の勢何万騎かあるらめども、戦の陣へ笛持つ人はよもあらじ。上臈はなほ

もやさしかりけり。」とて、九郎御曹司の見参に入れたりければ、

これを見る人、涙を流さずといふことなし。



【現代語訳】

（直実は）「ああ武士ほど残念なものはない。武家に生まれなければ、こんなつらい目をみなかっただろう。心なくも討ち取ってしまった。」と、うらみごとを言い、袖を顔に押し当てていいおいと泣いていた。

しばらくして、そのままではいられないので、敦盛の鎧直垂をとつて首を包もうとしたところ、錦の袋に入れた笛を腰にさされていた。

「ああ、かわいそくに。今朝、城内で音楽をしておられたのは、この人たちでいらした。今、味方に関東の武將が何万騎あるだろうが、戦に笛を持っている人は、まさかないだろう。身分の高い人は優雅であるなあ。」と言って、（九郎御曹司）義経殿にお見せすると、これを見た人で泣かない人はいなかった。

【話し合おう】

◆源氏の武將、熊谷次郎直実は、この後、武士の身分を捨てて出家します。なぜ、出家したのでしょうか。

★【話し合おう】をふまえて、熊谷次郎直実にオリジナルのセリフをつけなさい。

ナレーター

平家との戦が終わりに、しばらくたってから直実は敦盛の墓の前で両手を合わせ、しみじみと泣きながら語り始めました。

直実



あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟のうちより、

年五十ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持ったるが、扇立

てたりける所に立つて舞ひしめたり。伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ

寄つて、「御定ぞ、つかまつれ。」と言ひければ、今度は中差取つてうちくは

せ、よつぴいて、しや頸の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。

平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけ

り。「あ、射たり。」と言ふ人もあり、また、「情けなし。」と言ふ者もあり。

【現代語訳】

あまののおもしろさに、「感に堪えなかつたのであろう、舟の中から、年の頃五十歳ほどの男で、黒革おどしの鎧を着、白柄の長刀を持った男が、扇の立ててあつた所に立つて舞を舞った。そのとき、伊勢三郎義盛が、那須与一の後ろへ馬を歩ませてきて、「義経殿からの命令であるぞ、射よ。」と



命じたので、今度は中差を取ってしっかりとつがえ、十分に引き絞つて、男の首の骨をひょうふつと射て、舟底へ真つ逆さまに射倒した。

平家方は静まりかえつて音もしない、源氏方は今度もえびらをたたいてどつと歓声を上げた。「ああ、よく射た。」と言つ人もあり、また、「心なごいぞ。」と言つ者もあつた。

語句の意味・情けなし…情け知らずだ。人間らしい心、感情がわからないのか。

〔話し合おう〕

◆エクスパートA・B・Cの考えを統合して考えよう。

敵の平家の武士が、「情けなし。」と言つ心境は、わかりますが、味方である源氏の武士が「あ、射たり。」「情けなし。」と言つた心境を理由をつけて説明しなさい。(誰に対する「情けなし。」なのか?)

「あ、射たり。」

「情けなし。」

平家物語 No.4 クロストーク

ミニクロストーク

★自分たちのグループと他のグループを比較して、同じ点や違う点を見つけてグループに持って帰るために

〔◆語り合おう〕自分たちのグループの「あ、射たり。」「情けなし。」「言った心境を理由をつけて説明しなさい。(誰に対する「情けなし。」?)

メモ

二年()番 名前()

クロストーク1・2

◆仲間の意見を聞いて気付いたことや発見をメモしよう。

メモ

授業日時	平成29年	教科・科目	国語
学年・年次	第2学年	児童生徒数	
実施内容	平家物語	本時／この内容を扱う全時数	5／6

授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか）

古典を読む楽しさを実感できる授業としたい。そこで、単元を貫く課題設定を『平家物語』の一場面を映画監督になって演技指示書を書くことをゴールとした。そのためには『平家物語』に描かれるテーマや登場人物たちの生き方や考え方に迫る必要がある。古典の軍記物語であっても現代の小説であっても描かれているのは同じ人間ドラマであることに気付かせたい。次の単元では、『走れメロス』を学習する。

メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）

前時に行うエキスパート活動では、3人の武将を取り上げた資料A「那須与一」B「源義経」C「熊谷次郎直実」を分析し、武将たちの生き方に迫ったセリフを書く。立場や状況が異なる武将の考えを持ち寄ってジグソー課題として『弓流し』の場面で、源氏の「あ、射たり。情けなし。」の心境を説明させる。

本時のクロストークでは、武士の生き方を生徒一人一人の言葉で語らせたい。そこで、クロストークを充実させるためにミニクロストークで、他のグループの意見を聞いて自分たちの考えを再検討させる手立てやクロストーク1、源氏の「あ、射たり。情けなし。」の心境について語る。クロストーク2「武士の生き方について」語る。という段階的な手立てを取る。1時間のクロストークの中で、仲間と語ることで自分の考えを整理したり、深化させたりすることを通して、生徒一人一人の納得解に結び付けたい。

期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）

那須与一にとって、大将の源義経の命令は絶対であった。武士は、名誉を大切にしてきた。『弓流し』の義経は、命に替えても自分の弓を取りに行った。源氏のトップとしてのプライドからの行動だった。だから、与一に義経が舞を舞った老兵を射落としたことを源氏の兵が「あ、射たり」と言ったのは、戦乱の場で敵を射る＝命のやりとりは当たり前という考えである。一方、『敦盛の最期』の熊谷次郎直実は、源氏の武将でありながら平家の武将の首を取ることを躊躇する。敵ながら自分の息子と同じ年頃の平敦盛の潔く風流な生き方に感動したからだろう。武士の生き方に疑問を持ち、武士の身を捨てて出家する行動からも熊谷は、人間の情を優先した。『弓流し』で、源氏の兵が「情けなし」と言ったのも敵味方をこえて素晴らしいものを褒めたたえる思いを大切にしたい。容赦なく命を奪わせる義経は非情だという考えだと思う。

授業前に武士は、こわいけどカッコいいものと思っていたけれど、『平家物語』を読んで、一人一人の武士にそれぞれの考えがあって、でも逆らえない大きなもののために生きていたことがわかった。平安時代末期の貴族の世から武士の世という移り変わりのはざ間で揺れ動く武士たちの思いを知ることができた。平家物語の武士たちは、切ない感じがした。

期待する学びの姿

知識構成的ジグソー法という手法を通して、3つの資料を分析し、考えを伝え合い、統合して考え、交流することで気づきが生まれ、考えが深化していく。その過程を通して16人の生徒が主体的に語る姿や考えを書く姿に集約される。16人それぞれが『平家物語』の武士たちの生き方について表現できる姿を期待する。